

編集後記

『真実心』第三十二集をお届けします。平成二十二年度新入生対象の学長講話「自校史と建学の精神」を始め、宗教講座講話四編が収められています。

皆さんは普段、宗教ということをほとんど意識することなく生活しておられると思います。しかし、皆さんは本学で仏教を学ばれ、宗教講座をお聴きになる中で、改めて自分が生きる意味を考えて頂けたのではないかと思います。

皆さんが「宗教講座」と聞いて想像したものと、実際に参加した宗教講座は決して同じ内容のものではなかったのではないのでしょうか？仏教について延々と難しい話を聴かされるのではないかと思っていた方もおられたかもしれません。しかし、実際は決してそうではなく、先生方の体験などからお考えになった「いのち」についてお話を聴きし、皆さんご自身に振り替えて考えていただけたはずです。

本学は浄土真宗の宗祖である親鸞聖人が大切にされた「真実心〓慈悲の心」を校訓

とじています。「真実心＝慈悲の心」とはすべての「いのち」のつながりでもありません。その「真実心＝慈悲の心」を考えるきっかけとして宗教講座はあります。人はどこから来てどこへ行くのか、また人の本質とは何か、私たちが万物とつながっていることを、皆さんには考えていただけることを願っています。

最後になりましたが、ご講話をお願いしました先生方には、ご多用の中、原稿にお目通しいただいたことを厚く御礼申し上げます。

(編集委員会)